

なだ まち ず
灘 町 図

●所在地／灘町 ●所有者／個人

この灘町図は、縦93.8cm、横169.2cm、未表装の和紙に描かれた紙本淡彩の絵図である。

北は梢川こずえがわから港の波戸石垣おおず、東は大洲藩蔵屋敷えいようじ、栄養寺にいや、新谷藩蔵屋敷が描かれているとともに、この絵図によって町や港の施設である番役所、浜役所、綿役所はんべつ、帆別役所じやの場所が初めて明らかになった。港には蛇の目紋めもんの幕を張った大洲藩の御用船なども描かれている。

また、波戸並びに港の波戸石垣には、建設年代と建設幅が詳細に記され、ぶんか文化9年(1812)からてんぽう天保6年(1835)まで24年間かかったばんあんこう萬安港の建設経緯と場所が初めて明らかになるなど、愛媛県下でも珍しい江戸後期の貴重な港湾建設の絵図である。

由来は未詳であるが、みやうちこさぶろう宮内小三郎家が波戸普請に関わっていたことから、大洲藩などへの提出用の絵図の控えか下書きであると推測される。

